

安心と信頼、深めよう 生産者交流会

水産の現場から…

「年間いつでも
おいしい冷凍魚をお届けします」

私たちシーサットは下関漁港の鮮魚仲買からスタートしたプロの「魚屋」です。「自分たちが選んだいい原料魚を、自分たちで処理できる」という強みを活かして、水産冷凍加工に取り組んでいます。年間を通して組合員の皆様においしい魚を供給するために年間の必要数を確保しないとけません。そのため、日本各地の情報を収集することはもちろん、魚を搬入し、大型の施設で選別加工

し、能力の高い凍結機で冷凍、大きな冷凍庫で保管しています。いつも同じ量の魚が揚がるわけではないので、魚の都合に合わせて工場の体制を整えています。当社の出荷先は95%が全国の生協さんです。組合員の利用状況を考慮し、年間の必要量がおおよそ読めるからできることです。冷凍魚は鮮度のいい魚をいつでも利用できる生協ならではの商品です。

「天然ぶり切身」でなじみ (株)シーサットによる 水産冷凍品のおいしい食べ方講座

1月14日、高橋総合市民交流センターにて山口県下関市から(株)シーサットの藤田宗三さんをお招きし、水産業の現状や水産冷凍品の調理の仕方を教わり、その後の試食で2時間半おしく学びました。(参加者30名)

冷凍魚はパサパサ？

組合員さんからよく言われるのが、「冷凍の魚は「鮮度が悪い」というイメージです。その次に多いのが、「解凍の仕方が分からない」「冷凍の魚はパサパサする」というお声です。そこで、ひとつひとつの疑問にお答えしたいと思います。

「鮮度」について

獲れたての鮮魚が店頭に並ぶのは翌日か翌々日です。生魚だから鮮度がよいとも限りません。船凍スルメイカの場合、獲れたてのイカを船でそのまま凍結してあります。これ以上、鮮度を保てる方法はないです。「冷凍のものは鮮度が悪いから良く火を通そう」と必要以上に調理してしまうのは間違いです。冷凍することで鮮度の悪くなることを防いでいるのです。

「解凍の仕方」

無頭えびのように殻や丸のままの魚は水につけて解凍



することができません。塩水にしないで、うま味が逃げることはありません。

「パサパサする」

加熱し過ぎるとパサパサの原因になります。上手に解凍することで、よりおいしく召し上がっていただくことができます。

ほたて貝柱は、「繊維に沿って縦に切ると、プリプリとした食感と甘味が口に広がりますよ」と説明がありました。



私たちの工場はみなさまのご家庭の前の大きなキッチンです。水産冷凍品を上手に活用してください!

株式会社シーサット

所在地 山口県下関市
昭和25年に下関漁港において鮮魚仲買を業務とする利岡商店として創業。現在までに水産加工業の転進をはかり、水産物冷凍加工食品加工、塩干加工など、鮮度が高く品質の良い食品を提供するために、先進の加工設備と新技術を導入。「おいしくて安全」をお届けするため衛生面や作業プロセスにも配慮し、よりよい製品づくりに力を注いでいる。

天然ぶり切身加工作業の様子や工場内を見学しました。工場内の休憩室には組合員の皆さんから寄せられた商品への意見・質問が貼られていました。品質管理に対する姿勢が分かり、好感を持ちました。大きな冷凍庫の中に入り、一瞬でまっ毛が凍ってしまいうほど寒かったです。意外にも、魚臭さや味も保ったまま保管しているんだということがわかりました。



シーサット工場見学レポート



参加者の声

●今まで冷凍のままのものを調理していません。横着するからパサパサになっていたのですね。知りませんでした。これから十分に解凍を心がけたいと思います。



●初めてイカをさばきました。ゲソの吸盤も落とすことができ、勉強になりました。イカの刺身、塩辛、肝焼きも最高で、とても捨てる所がないということも素晴らしいです。それに、これ本当に冷凍？と思うほど歯ごたえもよくおいしかったです。

●スーパースーパーのものはすでに解凍されているものが多いですね。自分で解凍できれば都合に合わせておいしく食べることができる。もし生協の水産品を活用したいと思いました。



水産冷凍食品の 上手な解凍方法

刺身用ほたて貝柱

★刺身用のほたて貝柱は生で食べられる商品です。袋のまま、自然解凍するのがおすすめです。

天然ぶり切身解凍方法

ぶりの切身は断面が大きいので、水につけると味が逃げてしまいます。電子レンジを使いましょう。

★凍ったままのぶり2切を耐熱皿に並べ、そのまま加熱し、途中で裏返し、内側と外側の位置を変え、更に加熱し、キッチンペーパーで水気を拭き取る。

★冷凍魚1gにつき0.5秒(500W~600W)が全体の加熱時間の目安です。(他の魚やお肉にも応用できます)

※電子レンジによって解凍具合が異なるので、様子を見ながら解凍してください。

★自然解凍する場合は、チルド室で7~8時間解凍してください。

天然ぶり切身解凍方法 7ポイントアドバイス

★解凍した後は洗わないで、水気をふくだけにしてください。その後、塩をふりましょう。

★鮮度がいいので、焼きすぎないでください!



エコまち ネットワーク・よどがわ

ソーラーパネル点灯式

「地球温暖化防止と地域活性化を両立するまちづくり」をめざし、東淀川区にある大阪経済大学地域活性化センターの呼びかけで2006年に発足した「ECOまちネットワーク・よどがわ」。《よどがわ》の他、地域の活動団体と個人会員30名が参加して活動しています。その一環として3年前より東淀川区にある介護老人福祉施設「さわやか苑」との間で太陽光発電設備を設置する話をすすめてきました。「市民共同発電所」が、昨年末に同屋上に完成。今年11月1日に点灯式を行いました。この日は事業に寄付していただいた方々とともに、餅つきでお祝いしました。

太陽光パネル80枚で出力10KW、年間予想発電量は1万KW、温室効果ガス・CO2を7.4t削減する能力を持っています。この事業費のうち、国と大阪市からの補助金などを充て、残りを「ECOまちネットワーク・よどがわ」の出資と市民からの寄付を募っています。

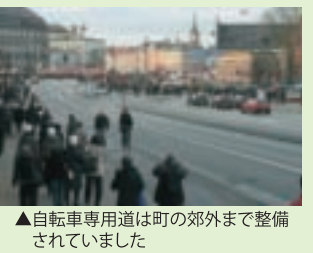
《よどがわ》組合員でもあり、「ECOまちネットワーク・よどがわ」の会長でもある柳正義さんは「まだまだ寄付は足りません。皆さんの力で大阪市内初の試みにご協力下さい」と話されていました。

デンマークの環境の取り組み

環境先進国デンマーク。そのとりくみの一部を紹介します。

自転車道の整備

デンマークで道を歩く時に「注意して」と何度も言われたのが、自転車専用道路のこと。歩道と車道との間に自転車専用のレーンがあります。柵も表示もほとんどないのでうっかり歩道からはみ出して歩きそうになるのですが、ビューンと高速で自転車が走ってきます。小さな子どもを乗せたり荷物を運ぶリヤカーと合体したような自転車もありました。歩道でも車道でも走っても危険な日本の自転車事情とは大違い、とっても合理的でECOにも健康にもいい町づくりがおこなわれていました。



風力発電

風力による発電の温室効果ガス抑制のために産業界、とりわけ発電時のCO2削減が大きな課題です。石炭などの化石燃料依存から脱却し、太陽光や風力など自然エネルギーの活用が有効とされています。デンマークは、早くから風力発電にとりくんでいる国です。COP会場近くにも、またスウェーデンとの国境の海には何十機もの風車が回っていました。現在では、騒音等の問題から、洋上での建設がすすんでいるそうです。

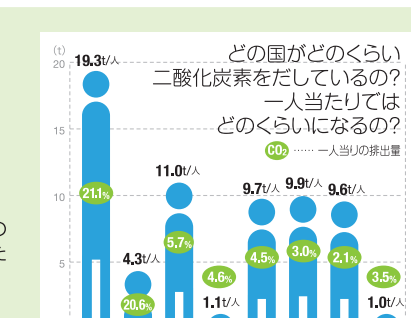


▲町のおちこちでNGOがアピール
10万人パレードでは横断幕でアピールしました



▲よどがわ組合員さんのメッセージが書かれたハッピーをきてアピール

その反面、うれしかったのはそのツバルの展示ブースでアピールされたのが日本人だったことです。海面上昇の深刻な実態を写真に撮り続け発表されてきた写真家の方が熱を込めてお話しされていました。他にもCOP会場でも世界に向けて発信されている多くの日本人の姿に感動しました。COP15は残念ながら結果に終わりましたが、10万人パレードでの世界の多くの人々との連帯感を肌で感じ、次の交渉では「ぜひ同意を」という思いと、自分たちの足元から温暖化にとりくむ大切さを学びました。温暖化のために私たちができることを、これから《よどがわ》の中でも積極的に発信していきたいと思っています。



どの国がどのくらい二酸化炭素をだしているの? 一人当たりではどのくらいになるの? (単位: kg/人)

COP15に参加し、一番考えさせられたのは「先進国・日本に住む者としての温暖化問題」ということです。COP開催前日本のマスコミでは「これだけの首脳が集まるのだから、手ぶらでは帰れない」との論調が多くありましたが、COP15が途上国の反対により合意に至らなかったという結果をふまえて、今振り返ってみると、合意に反対した途上国の人々の気持ちを本当には理解していなかった...と思えました。温暖化による海面上昇で海に沈むといわれる国ツバル代表の発言、「私たちの将来は売り物ではない」はまさに先進国に住む私たちに向けられたのだと思えました。



よどがわ市民生協(組織部) 上垣史子レポート Denmark

昨年12月デンマークのコペンハーゲンで開催されたCOP15(国連気候変動枠組条約第15回締約国会議)に、《よどがわ》の代表として参加しました。IPCC(※註)は「今後気温上昇が1.5~2.5℃を超えた場合、動植物の20~30%が絶滅するリスクが高いこと、対策のためには気温上昇を2℃未満に抑えることが必要」等とする第4次報告書を2007年にまとめました。COP15は、この待ったなしの課題である地球温暖化問題に対し、約120カ国の国々が集まり、対策の合意に向けて話し合いが行われました。残念ながら先進国と途上国との主張の溝が埋まらず、合意には至りませんでした。交渉は今年メキシコで開催されるCOP16に引き継がれます。

ストップ 地球温暖化

COP15参加報告